

# 地域婚活と地域活性化の諸問題に関する研究

実施担当研究員：中挟 知延子（研究員、国際地域学部国際地域学科 教授）  
 古田 富彦（客員研究員）  
 小浪 博英（客員研究員）

対象：「ぐんま赤い糸プロジェクト（あいぷろ）」事業および「街コン」

研究期間：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月

## 1. 研究の背景と目的

現在、我が国ではジェンダー規範・結婚観にギャップがあるとともに適当な相手とのめぐり合いの機会が乏しく未婚化・晩婚化が進行している。特に地域では少子高齢化と過疎化が進行している。また、過疎化に伴い、供養する親族や縁者がいなくなり、無縁墓も増えている

独身男女の出会いの場を提供するのは、もっぱら営利目的の民間事業者または「おせっかい役の仲人」だと思われていたが、そのような仲人が減っているのが現状である。そのため、市町村自治体が直接、婚活支援を手掛けるケースが多数見出されるようになった。それは自治体の持つ信用力を活用して少しでも多くの独身男女の出会いと結婚の機会を創出することにより長期的には地域活力を高め、少子高齢化に歯止めをかけ、過疎化防止に繋がると考えられるからである。

一方、「街コン」は「出会い」「グルメ」「店舗繁盛」「観光」「地域活性化」の一石五鳥を狙いとし、近年全国各地でブームとなっている。

平成 23 年度に引き続き本研究は「ぐんま赤い糸プロジェクト（あいぷろ）」事業<sup>1)</sup>に係わる自治体や協賛団体が実施している婚活支援および「街コン」の実態を調査し、関連する諸問題と地域活性化への方策について研究する。

## 2. 研究内容

### (1) 未婚化・晩婚化・少子化を巡る現状

①我が国の未婚化・晩婚化は急速に進展しており、未婚率は近年上昇を続けている。特に女性 25-29 歳、男性 30-34 歳の未婚率上昇は著しい<sup>2)</sup>。(図 1)

②独身者の約 90%が結婚を希望する一方で、独身にとどまっている理由としては、「必要性を感じない」、「自由や気楽さを失いたくない」といった回答よりも、「適当な相手に巡り会わない」という回答が多くなっている<sup>2)</sup>。(図 2)

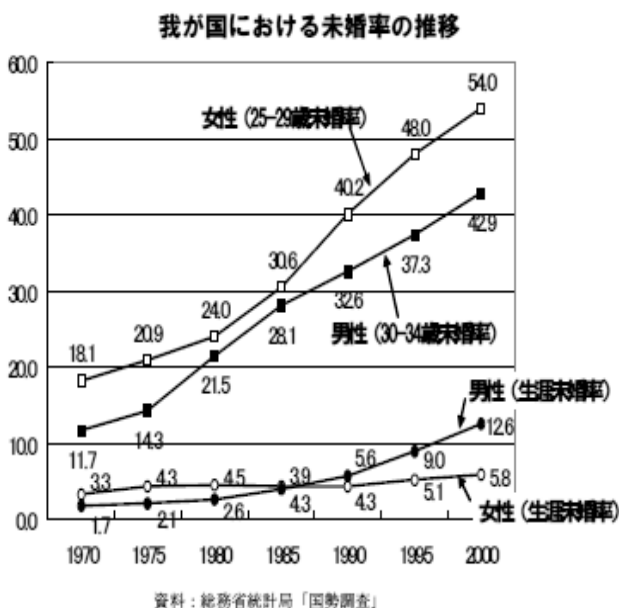
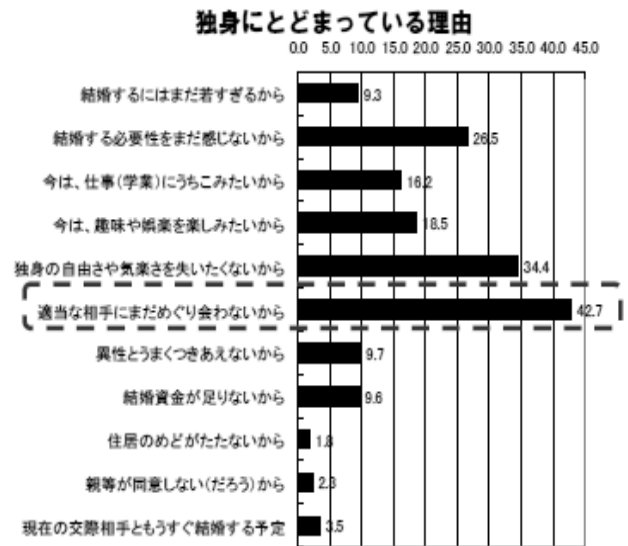


図 1



資料：経済産業省「少子化時代の結婚関連産業の在り方に関する調査研究報告書1(平成18年5月)の未婚者アンケート調査

図 2

2012 国立社会保障・人口問題研究所の調査によると 2010 年では生涯未婚率は男性 20.14%、女性 10.16%となっている。18～34 歳の交際相手がいない未婚者の割合は男性で 6 割、女性で 5 割と何れも過去最多となっている。しかも、その半数弱が「交際を望んでいない」と冷めている。夫婦の子供数（平均 1.96 人）だけでなく、結婚以前の男女の出会いまで、大きな変化が表れ始めている。こうした国民意識の変化を軽く見ると、後で取り返しのつかないことになる。背景には、若年雇用の不安定さや、結婚や出産に対する価値観が変わったことなど、さまざまな理由があると思われるが、「結婚したい」「子供が欲しい」と考えている人も少なくない。政府はこういった人に新たな事情が広がっていないか、早急に分析し対策を講じるべきだと考えられる。

#### (2) 「ぐんま赤い糸プロジェクト（あいぷろ）」事業の調査<sup>1)</sup>について

「あいぷろ」は依然進行する未婚化・晩婚化を受け、群馬県少子化対策・青少年課が会員団体、協賛団体、県内市町村社会福祉協議会等と連携して結婚を考えながらも出会いの機会が減少している独身男女の交流を促進しようとするものである。第 1 回イベントが平成 20 年 3 月（カップリングパーティー）～平成 24 年 12 月 31 日まで 236 回のイベントが実施されたが、参加者数は延べ 5,552 名（男性 2,853 名、女性 2,699 名）、イベントで成立したカップルは 528 組（約 20%）で実際の成婚数は 15 組（報告があったもののみ）である。「あいぷろ」はカップル成立までの事業であり、その後結婚するかどうかは各自の判断と責任としている。結婚したカップルは主催者に報告するように依頼はしているが、義務付けてはいない。従って、現在までの正確な成婚率は明白ではないが、長期的には地域活性化、少子高齢化防止につながるものと期待され継続されている。

本研究の 2 年目である平成 24 年度は「ぐんま赤い糸プロジェクト（あいぷろ）」事業に係る 8 婚活支援イベントを選んで現地調査を行い、カップル成立数、成婚率および地域活性化との関連を考察した。

#### (3) 現地調査

本年度は、下仁多田町、南牧村および上野村のような辺境または過疎地でのイベント、太田市新田金井町、邑楽郡千代田町および板倉町のような農村生活アドバイザーの会、農業青年会議、商工会や農協青年部が主催するイベント、およびコミュニケーション力やホスピタリティーを指導する婚活セミナーを主に調査した。日時、イベント名（主催者）、開催地、概要および結果について表 1 に示す。

基本的なイベントの流れは、①受付、②プロフィールカード記入、③1 対 1 トーク（約 2 分間）、④立食パーティーまたは体験（バーベキュー、こんにゃく作り、パン作り、バター作り、ゲームなど）、⑤フリートーク、⑥カップリング、⑦カップル発表、もしくは⑥相互に意中の男女が連絡先を交換、⑦なし、である。何れも主催団体、協賛団体の担当者やボランティアが周到な企画とともにイベントを一丸となって盛り上げようとする活躍の様子が印象深い。前述したようにカップル成立までの事業であり、その後の結婚まではカップル各自の自己責任としている。主催者に結婚の報告をするように依頼はしているが、義務付けてはいないので正確な成婚率を把握することが難しい。長期的には成婚率は必ずプラスの可能性があり、地域活性化、少子高齢化防止に役立つ活動として位置づけられる。

#### (4) 「街コン」について

「街コン」とは、街を盛り上げる合コンの意味である。一般的な合コンと異なり、参加者は少ない場合でも 100 名以上、規模の大きいものでは 3000 名弱にもなる。同性 2 名以上で 1 組となり、開催地区の定められた複数の飲食店を廻る。各店舗でリストバンドなどの参加証を呈示することで、制限時間内（3～4 時間）であれば定額で飲食が可能という内容で開催されるものが多い。発祥は 2004 年 8 月に開催された栃木県宇都宮市の「宮コン」と言われ、「街コン」として全国に広がりを見せている。「出会いの場創出」「飲食店等の販促」「地域活性化」が融合した大型合コンイベントとして全国的に注目を浴びている。

一般的な開催形式は、受付の方法が 2 種類あり、各店舗で受付する方法と、1 つの場所で受付する方法がある。何軒の飲食店に行くことができるかは、各イベントで異なり、何軒でも自由に行ける「街コン」と決められた数の飲食店に行けるチケット制の「街コン」がある。街コンの参加費には通常すべての飲食代が含まれており、1 回の参加で様々な飲食店を飲み歩き、食べ歩き

でき、各店舗が提供する料理を楽しめるイベントである。「街コン」が長期に亘り継続的に開催されることが、街に経済効果が生まれ、結果的には地域の活性化につながると考えられる。2011年～2013年1月の間に全国計約2000カ所で開催、約90万人の参加者となり<sup>3)</sup>、「復興の力」になるとして、東日本大震災の被災地でも活発に実施されている。

表1:「あいふろ」取材イベント一覧

日 時	イベント名 (主催者)	開催地	概 要	結 果
H24/5/20(日) 9:30～16:00	西上州出会い交流イベント こんにちは手づくり&わくわくBBQ (下仁田町出会い交流の場づくり実行委員会)	群馬県 甘楽郡 下仁田町	男女ともに20才～ 男女 各20名募集 会費 男性2,500円 女性2,000円	男性9名、女性7名が参加し、2カップル(男性22%、女性29%)が成立
H24/7/22(日) 12:30～17:00	西上州出会い交流イベント ブルーベリーでベリーグッド (南牧村役場)	群馬県 甘楽郡 南牧村	男女ともに20才～ 男女 各15名募集 会費 男性3,000円 女性1,500円	男性8名、女性4名が参加し、1カップル(男性13%、女性25%)が成立
H24/7/22(日) 15:30～18:30	アニバーサリープレゼントの35才～45才中心のコミュニケーションパーティー ((株)アニバーサリープレゼント)	群馬県 高崎市 島野町	男女ともに35才～45才 男女 各20名募集 会費 男性5,000円 女性3,000円	男性12名、女性16名が参加し、3カップル(男性25%、女性19%)が成立
H24/9/8(土) 10:00～15:00	幸せになろうよ! in 太田 (東部農村生活アドバイザーの会)	群馬県 太田市 新田金井町	男女ともに20才～45才 (男性は農業後継者) 男女 各40名募集 会費 男性2,000円 女性500円	男性24名、女性24名が参加し、相互に意中の男女が連絡先を交換
H24/9/9(日) 10:00～16:00	愛も膨らむ?パン作り体験と神流川を望むホテルヴィラせせらぎでバーベキュー (西上州山村交流推進協議会)	群馬県 多野郡 上野村	男女ともに20才～ 男女 各15名募集 会費 男性3,000円 女性1,000円	男性18名、女性16名が参加し、6カップル(男性33%、女性38%)が成立
H24/10/6(土) 10:30～16:00	2012 ふれあいバーベキュー交流会 (邑楽町農業青年会議)	群馬県 邑楽郡 千代田町	男女ともに20才～40才 (男性は農業後継者) 男女 各20名募集 会費 男性1,000円 女性1,000円	男性10名、女性16名が参加し、相互に意中の男女が連絡先を交換
H24/10/6(土) 18:00～21:00	ホスピタリティー&カウンセリング入門セミナー第1日目 ((株)岩田教育・経営研究所)	群馬県 高崎市 下之城町	男性 25才～45才 女性 20才～45才 男女 各15名募集 会費 男性8,000円 女性6,000円	男性5名、女性5名が参加し、2カップル(男性40%、女性40%)が成立
H24/12/9(日) 9:30～16:00	お見合いパーティー (板倉町商工青年部・邑楽館林農協青年部板倉支部・板倉町)	群馬県 邑楽郡 板倉町	男女ともに20才～40才 男性は12/2「婚活必勝セミナー」参加者 男女 各25名募集 会費 男性5,000円 女性2,000円	男性24名、女性7名が参加し、7カップル(男性29%、女性100%)が成立 4回のイベントを通して3組が結婚

次に、「街コン」現地調査の概要を紹介する。H24 年度に調査した「街コン」は7イベントである。3/10「前コン」、4/15「横浜 Bay コン」(写真1) および 5/20「高コン」は、夕方イベントで同性2名1組を1つの場所で受付、リストバンド(参加証)を交付、決められた3店舗で各1時間飲食・合コン(途中30分で席替え)、移動した2店舗目、3店舗目で同じ男女組が再会することが無いように仕組まれていた。

5/27「品川コン」、6/30「神保町コン」、7/14「三軒茶屋コン」および 9/29「二子玉コン」は、午後イベントで同性2名1組を各店舗で受付、リストバンド(参加証)を交付、受付した1店舗目で45分間飲食・合コン、その後フリータイムでどの参加店舗へも自由に移動し、飲食・合コンするシステムであった。開催は土曜日・日曜日の午後が多く、飲食店にとってはアイドルタイムと呼ばれる来客が少ない時間帯であるため、売り上げにも貢献している。何れも「お見合い」や「婚活」などが前面に出過ぎず、飲み歩きや食べ歩きを楽しめ、イベント感覚で参加できる取付き易さ、気安さがあり、大盛況であった。

参加費合計約150~1,000万円、参加のための交通・宿泊費、店舗繁盛、地元商店売り上げ増加、観光収入などの経済効果と地域活性化が期待される一大イベントであった。気の合った男女はお互いに連絡先を交換していたが、カップル成立の報告義務はなく、各自の判断と責任としている。そのため結婚へ至る成婚率のデータはないが、全国的に膨大な数の参加者であり、出会いの機会の絶対数が多いので今後の成り行きが期待される。参加者は男女とも出会う相手により籤運同様悲喜交々、一時的な出会い、またはあわよくば良い出会いを期待して共に飲食を楽しむことで店はどこも活気に溢れていた。

### 3. 考察

出会いを目的としては、(A)お見合い、(B)婚活に力点を置いたカップリングパーティー、(C)合コン、(D)友人の紹介、といったものがあるが、図3に示すような位置づけになると考えられる<sup>4)</sup>。「あいぷろ」イベントは(B)、「街コン」は(C)に位置づけられる。従って、「街コン」は婚活としては非効率的ではあるが、全国的に参加者(約90万人)が多いのである程度の成婚数が期待され、長期的には少子高齢化防止になるものと考えられる。

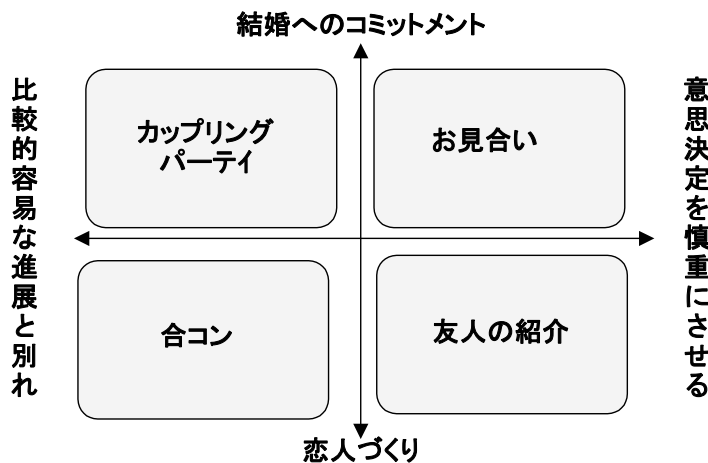


図3：出会いの位置づけ



写真1：横浜 Bay コン

「あいぷろ」イベントは、群馬県が社会福祉協議会等と連携して関与し、主催者が自治体、その傘下の商工会議所や農協青年部、その他協賛団体であることから公共性が高く信頼があり、参加費が数千円程度と少ない費用であるため、安心して応募できる。カップル成立までの事業であり、その後の結婚までは各自の判断と責任としている。主催者に結婚の報告をするように依頼しているが、義務付けてはいないので正確な成婚率を把握することが難しい。長期的には成婚率は必ずプラスの可能性があり、地域活性化、少子高齢化防止に役立つ活動として位置づけられる。結婚の報告を義務付けるとともにイベントを通じて結婚したカップルには主催者が結婚祝い金や記念品贈呈など何らかの特典を与えることが提案される。

出会いは第一印象、相性（性格、価値観など）、お互いの条件（職業、学歴、年収、趣味など）を互いに確かめ合うことであるが、男女ともにホスピタリティー、コミュニケーション力の不足が甚だしい。イベント前に「ホスピタリティー&カウンセリング入門セミナー」（株）岩田教育・経営研究所）や「婚活必勝セミナー」（板倉町）を受講させてから婚活イベントに参加させることは注目に値する。地方自治体、地域の商工会青年部、農協青年部、協賛団体およびボランティアが一丸となって協力し、一生懸命に創意工夫をして取り組んでいる婚活支援イベント活動自身が地域活性化になっているとも考えられる。

「街コン」、いわゆるその街・地域が一体化して開催する大規模合コンイベントであり、地域活性化対策と少子化対策双方の起爆剤にそうな方策が全国的に広まりつつある。「街コン」のKey Wordsは「参加者」「主催者」「参加店」「地域」が”すべてWin Win”であること。男性2人、女性2人が経験上ベストな応募方式であること。問題点は、インターネットによる公募、申込、クレジットカードによる参加費事前納入のため、偽コン詐欺が簡単であること、参加者が独身であるかどうか確認できないこと、梯子酒を伴う合コンであり、悪質なナンパ師に騙されるおそれがあること、「主催者」「参加店」が商業第一主義に走るおそれがあること、トラブル・事故、男女間の責任問題などがすべて参加者の自己責任となっていることなどが挙げられる。主催者は開催にあたって規則やトラブル防止策を一層整備するとともに全国的には安心安全な出会いを担保する認証制度を創設する必要がある。

#### 4.まとめ

- (1) 営利目的の民間事業者による婚活事業に比べて「あいふろ」事業に係る地域婚活は数千円程度の少ない費用でイベントに参加できる。ただし、カップル成立までの事業であり、その後の結婚までは各自の判断と責任としている。地域婚活を一層促進させるため、結婚したカップルには主催者への報告を義務付けるとともに主催者は結婚祝い金や記念品贈呈など何らかの特典を与えることが提案される。
- (2) プロフィールカードには番号、氏名、年齢、住所、職業、趣味、セールスポイントのみならず学歴、勤務先、年収などの情報もお互いに交換させる。カップリングを成功させるには主催者の熱意、創意工夫、参加者への気遣いが非常に大切である。主催者はリピーターも含めてイベント前に講演会やセミナーを開催し、結婚、エチケット・マナー、会話の仕方、カップル成立後のつきあい方などについて受講させることが提案される。
- (3) 婚活支援、カップル成立から結婚、定住、地域活性化に繋がるまでにタイムスパンがあり、婚活支援の効果を定量的に把握するには相当な年数が必要である。地方自治体、地域の商工会青年部、農協青年部、協賛団体およびボランティアが一丸となって協力し、熱心に創意工夫して活動している婚活支援事業それ自身が地域活性化になっているとも考えられる。
- (4) 市街地まるごと会場にした飲み会、大型合コンいわゆる「街コン」は、「参加者」「主催者」「参加店」「地域」がすべて”Win Win”であるべきでトラブル発生は致命傷になりかねない。主催者は開催にあたって規則やトラブル防止策を一層整備するとともに全国的には安心安全な出会いを担保する認証制度を創設する必要がある。
- (5) 「街コン」は婚活としては非効率的ではあるが、全国的に参加者の絶対数（約90万人）が大きいのである程度の成婚数が期待され、長期的には少子高齢化防止になるものと考えられる。

#### 5. 今後の課題

「あいふろ」および「街コン」の調査・分析の継続、成婚率・定住率の調査、地域活性化への効果、営利目的の結婚仲介業者、「会員組織」や「ネット婚」との比較調査、「街コン」認証制度整備状況の調査、婚活文化・「街コン」文化の普及、「震災婚」の増加確認、婚活支援事業の予算化

##### 参考文献

- 1) 「ぐんま赤い糸プロジェクト（あいふろ）」ホームページ
- 2) 経済産業省「少子化時代の結婚関連産業の在り方に関する調査研究報告書」（平成18年5月）の未婚者アンケート調査
- 3) 街コンデータ/街コンまとめ、URL(<http://machicom-maticome.com>) (2012)
- 4) 街コン掲載記事、URL(<http://machicon.jp/index.php?>) (2012)